



公益財団法人北海道スキー連盟 オフィシャルスポンサーシッププログラム2022-2023

北海道スキー連盟 未来のオリンピック・メダリスト育成サポート振興プログラム

未来はここから! 北海道をスキーで元気に!

FIS SnowKidz Program

北海道スキー連盟 普及振興事業



普及振興事業報告書

2022-2023シーズン

2022-2023REPORT

2023年6月7日



Ski Association of Hokkaido

公益財団法人 北海道スキー連盟

北海道スキー連盟は、国際スキー・スノーボード連盟(FIS)の「FIS Bring Children to the Snow～子供たちを雪の世界へ～」に賛同し、「北海道をスキー・スノーボードで元気に！」を合言葉に、本連盟と全道各地のスキー連盟や団体と連携し、コラボ主催として「Enjoy powder snow」キッズイベントを行うこととした。FISのこの企画は、世界中のスノースポーツに係る個人から団体までイベント登録することができ、日本では、大手のスキー場などで実施した実績があるが、都道府県単位のスキー連盟が登録し行ったのは、本連盟が初めてではないかと思う。

本連盟としても、初めての試みであり、準備期間が短かったこともあり、道内でスノースポーツイベントや教室の実施経験がある「総合型スポーツクラブ・団体」などと連携し2022-2023シーズンは連携団体の既存のイベントをベースに事業を行うこととした。

実施にあたり、FISの開催概要に、「イベントでの参加料は無料にすること」とあるため、5箇所の連携団体には、企画書提出の際に、下記いずれかの助成内容を選択してもらった。

①参加費と運営費の一部として助成を申請する。

(通年教室の開催で、すでに参加費を徴収しているが、本事業では参加料を無料にしなくてはならない為)

②オリンピック・パラリンピアン等の謝礼等の費用と運営費の一部として助成を申請する。

(オリンピック・パラリンピアンを呼ぶネットワークがない、通常依頼料では予算がなく呼べないという声を本連盟から依頼することで可能にできる)

その他、開催告知、開催に際しては、本連盟から提供した各種データを活用すること、スポンサーバナーと各種バナーの設置、FISゼッケン、FISプレゼント品(ネックウォーマー)、ディプロマ(修了証)の配布を行うこと。開催後は、連携団体が報告書を提出し、本連盟がFISのホームページへのアップをおこなう。

上記記載の子供たちへのアプローチの他、FIS専用サイトから世界中のイベント情報が閲覧できることから北海道のスノースポーツの情報発信源となり地域振興にもつながると考え、コラボ主催していただいた連携団体のTwitter、Facebook、ホームページなどSNSもFISのサイトおよび本連盟の特設ページにも掲示した。

FIS応募の主たる概要

FIS の SnowKidz イベントは、世界中のイベント主催者が、子供たちを対象としたスノーイベント情報を共有したり紹介したりする、ユニークなコミュニケーションの場です。子供たちが将来、トップクラスのスキー選手やスノーボード選手に成長すること以前に、健康的なレジャー、レクリエーションとして、人生を通し楽しんでもらえることを、最大の目的としています。トレーニングキャンプは対象外となります。スノースポーツ未体験の子供たちには、スノースポーツの楽しさを知ってもらうきっかけとして、そして既にスノースポーツに慣れ親しんでいる子供たちに対しては、更なる新しい体験を提供する役割を果たします。

SnowKidz イベントの登録申込みは、FIS メンバーの各国スキー連盟が行うことになっていますが、連盟とは独立した団体等のイベント申込みも可能です。その場合でも、各国スキー連盟を経由して申込みを行うこととなります。複数のイベントが国内で登録、実施された場合は各国スキー連盟がその中から1イベントを選び FIS SnowKidz Award (コンテスト) に推薦します。

FIS 公認イベントとして、FIS ウェブサイト、FIS 各種 SNS、メールニュース等から イベント情報が世界へ発信されるため、お金をかけずに国内外の外国人スキーヤー & ボーダーの集客につながる可能性が有ります。イベント登録し、先着順にてFISのゼッケンなどの開催キットを申し込むことができ、イベントで使用できる特典もあります。

プログラム名	開催日	開催地
Enjoy powder snow in 美幌 はじめてのスキー体験	1月7日(土)	美幌町リリー山スキー場
Enjoy powder snow in 滝野スノーワールド 初めてスキー	1月15日(日)	札幌・滝野スノーワールド
Enjoy powder snow in 枝幸三笠山 GATE Challenge	1月29日(日)	枝幸町三笠山スキー場
Enjoy powder snow in 沼田町 第73回町民スキー大会	2月12日(日)	ASIMOI KANKO 高穂スキー場
Enjoy powder snow in るもい 雪育デイキャンプ	3月26日(日)	留萌市神居岩スキー場

北海道スキー連盟 普及振興事業 FIS SnowKidz Program



北海道をスキー・スノーボードで元気に!

JAPAN AIRLINES

北海道エネルギー 北海道建設株式会社 J-COM ワインドワード 北海道アイ 清水建設



▲プログラムバナー

事業名	Enjoy powder snow in はじめてスキー in BIHORO	
助成内容	参加費無料+運営費の一部	
日時	令和5年1月7日(土) 9:30~11:00	
場所	美幌町リリー山スキー場	
参加者	参加人数：9名 + 保護者など	募集定員：10~15人
	年齢層：小学1年生	
	男女構成比：9対1	
	居住エリア：美幌町	
活動内容 詳細	<p>小学校1年生を対象にスキー授業が始まる前にスキー用具の取扱いと、スキーの基本を学ぶ機会として、安全にスキーを楽しめるよう、美幌スキー連盟の協力のもと開催した。</p> <p>スキーの基本を学ぶことではスムーズにレベルアップできるよう、最初はリフトを使用せず、姿勢や泊まり方、スキーへの力のかけ方などを指導。最初に基礎を学んだことで、参加者は恐怖心を克服し、スノーボードの楽しさを味わうことができた。後半には、リフトを使用し、参加者全員でリリー山スキー場の中間から滑走することができた。子供たちの体力向上とスノーボードの普及を図る良い機会となった。感染対策として、ロッジ内でのマスク着用、手指消毒の徹底を呼び掛けた。びほろスポーツクラブBeet×北海道スキー連盟のコラボとして開催となった本事業、普段の教室とは違う雰囲気に参加者はイベント気分をしっかりと味わっていただけたように感じた。</p>	
告知募集 方法	<p>期間：12月6日(火)~12月26日(月)まで 方法：美幌町ホームページ、美幌町公報、美幌スポーツクラブホームページ</p>	





総合型地域sc北海道ネットにメッセージを送信

総合型地域sc北海道ネットにメッセージを送信

事業名	Enjoy powder snow in 滝野スノーワールド 初めてスキー	
助成内容	参加費無料+運営費の一部	
日時	令和5年1月15日(日) 10:30~12:00	
場所	滝野スノーワールド	
参加者	参加人数：12名 + 保護者など	募集定員：10~15人
	年齢層：主に年長~小学1年生	
	男女構成比：5対5	
	居住エリア：主に札幌	
活動内容 詳細	<p>小学校1年生からスキー授業が始まることに不安をかかえている子供たちに、2時間という時間で、ブルークボーゲンで止まれるまでを指導。寒くて辛いものと思っている冬休み明けのスキー授業への不安解消となるよう、そしてもっとかんばってみようという気持ちになってもらえるきっかけ作りのイベントレッスン。</p> <p>講師には、オリンピック川端絵美氏をはじめジュニア指導に実績のある講師とサポートスタッフを十分配置し実施。新型コロナウイルス感染対策も適切に行った。</p> <p>当日の気温は-7度前後と少し寒さはあったものの、好天に恵まれ、子供たちが楽しくイベントに参加できた。実際のスキー指導は、室内でブーツの履き方などを個別に指導し、ブルークのV字を作る練習を最初に行った。その後、屋外に移動し、雪上にカーペットを敷き、スキーが勝手に滑らない安定した状態でV字を作る基礎動作の練習を重点的に行なった。その後は、スキーの先端を指導者が支えて斜面を安全に誘導し、子供たちはブルークの形から足を伸展し、制動に入る基礎的な練習に移行した。2時間を経過する頃には多くの子供が緩斜面のブルークから自力で制動をかけられるまでになり、スキーの操作の面白さが伝えられた。約2時間の講習後は、オリンピックの川端絵美氏から修了証(集合写真をつけ)を子供たち一人一人に渡され、子供たちは2時間の頑張りを実感できた様子であった。</p>	
告知 募集 方法	<p>告知は滝野スノーワールドのご協力をいただき、同施設のHPで行なった。 https://www.takinopark.com 期間：12月20日(火)~1月7日(土)まで</p>	





事業名	Enjoy powder snow in 枝幸三笠山【GATE challenge】	
助成内容	オリンピック依頼費用+運営費一部 (オリンピック 川端 絵美)	
日時	令和5年1月29日(日) 9:00~13:00	
場所	枝幸町三笠山スキー場	
参加者	参加人数：33名 +保護者など+地元スキー選手+地元高校生など	募集定員：30人
	年齢層：幼児～小学生	
	居住エリア：枝幸町内	
活動内容 詳細	<p>開催前日夜半から暴風雪となりイベントの開催が心配されましたが、朝から青空が見え始め最高のコンディションで本事業を開催することができました。</p> <p>開催にあたってはGATE（旗門）内を滑るということに不安を感じる子供や保護者がいましたが、「タイムを競い合うのではなく、冬の日をスキー場で思いっきり楽しもう！」の呼びかけてエントリーしていただきました。受付で嬉しそうにFISのピブをつけた子供たちは、開会式に参加。コースを見上げて怖気付く子供もいましたがスポーツボランティアとして参加する地元枝幸高校の生徒さんに励まされ、全員がスタート地点に立つことができました。「GATE challenge」では、まずは難易度の低い「初めてのチャレンジコース」を全員が滑走。希望者には「スキルアップコース」も滑ってもらいました。多くの子供たちが滑走を希望し、悪戦苦闘しながらも頑張ってゴールを目指しました。滑走中は真剣、無表情でしたがコース脇の声援に励まされ無事にフィニッシュすると達成感で顔がくしゃくしゃになっていました。スペシャルゲストの川端絵美さんからマイク越しに大きな声で応援をいただき、ゴール後に記念撮影する光景もあり、とてもホットな雰囲気でした。また運営スタッフとしてエムスクレーシングの若い選手たちも前走やコース整備、参加した子供たちのお世話役として大活躍。終了時には川端絵美さんから修了証を手渡され、最後に集合写真を撮って終了。なお、この日は、「スタンプラリー」や「雪中宝探し」のプログラムも用意し、冬の日を大いに楽しみました。イベント全体の参加者数は203名。ここ数年コロナ禍でひっそりとしていたスキー場に活気を与えていただきました。スキー場には子供たちの歓声が響き渡り、保護者やおじいちゃん、おばあちゃんの声援がすごくてとても印象的でした。これからのスポーツは「する」「みる」「ささえる」の三拍子がそろわないと、つくづく感じさせられた一日でした。これを機に、子供たちが山に足を運んでくれることを願うものです。</p> <p>（追記：当日、枝幸町のケーブルテレビ局（EOSチャンネル）の取材があり、イベントの様子はケーブルTVで放映されました）</p>	
告知 募集 方法	エムスク ホームページ・Instagram・Twitter・町内外での告知	





事業名	Enjoy powder snow in 沼田町第73回町民スキー大会	
助成内容	パラリンピアン依頼費用+運営費一部 (パラリンピアン狩野 亮)	
日時	令和5年2月12日(日) 9:00~15:00	
場所	ASHIMOI KANKO 高穂スキー場	
参加者	参加人数：49名 +同時開催イベント参加50名程+保護者など	募集定員：設けていない
	年齢層：幼児~中学生	
	居住エリア：沼田町、近隣市町村	
活動内容 詳細	<p>沼田町の豪雪地帯で大会当日も雪が降る中でしたが、町外からの参加者も多くまた当日受付も可能で大いに盛り上がった。地元スキー連盟とN-linkのスタッフが連携し全体運営を行い、学校でのスキー授業に係る指導者とも連携することで子供たちのスキー・スノースポーツを長い目で見守り指導できている小さな町のメリットをこのイベントでも出すことができた。ゲストの、パラリンピアン狩野さんがチェアスキーで子供たちと一緒に滑り、また大会前走も行ってくれた。子供たちは初めて見るチェアスキー、キラキラしたまなざしで狩野さんを迎え、大人からも大歓声が上がった。午後からは班に分かれてのスキーレッスンをを行った。表彰式では、タイム計測した順位表彰もさることながら、狩野さんのサプライズで、獲得したオリンピックのメダルを子供たちに触らせてもらえ「本物」の重みと、できる事を見つけベストを尽くし継続し続けることの大切さ、勇気、希望を与えてくれた。</p> <p>その他スキー場前では、スノーモービルでチューブ引くスノーボート、スノーフライダー、ちびっこ尻滑りなども開催し、親子3世代、本州からの移住者など多くの方にスノースポーツを満喫してもらうことができた。</p>	
告知募集 方法	N-linkホームページ、町内外での告知など	





事業名	Enjoy powder snow in 雪育デイキャンプ in るもい	
助成内容	参加費無料+運営費の一部	
日時	令和5年3月26日(日) 9:00~12:00	
場所	留萌市神居岩スキー場	
参加者	参加人数：22名 + 少年団関係者 + 保護者など	募集定員：30名程度
	年齢層：年中から小学3年生くらいまでのスキーが初めての子、やってみたくが不安がある子	
	居住エリア：留萌市内・留萌管内	
活動内容 詳細	<p>スキー場閉鎖から十数年が経過しているが、留萌市より圧雪車の導入があり、本来の利用目的であったスキー場としての機能を存分に活用し、子供達に向けた冬季スポーツの振興と健全な育成を目的として開催した。斜面を滑るいわゆるアルペンスキー(ゲレンデスキー)とクロスカントリースキーの講習を基本とし、雪上アトラクション(スノーモービルでチューブを引くバナナボートなど)を通じて雪遊びの楽しさを身近に感じてもらい「スキーをもっとやってみたく!!」の気持ちを育てて行くことも目的である。講習は3グループに分かれ各ニーズにあった内容で実施。講師には、地元のアルペンスキー、クロスカントリースキー、スペシャルジャンプ、コンバインド、スキー指導員など多彩な構成で行った。春の陽気にも恵まれスキー日和の中、子供たちは楽しくイベントに参加できた。ジャンプ台も作り、まさにスキー競技全部体験。なれない種目に戸惑うこともあったが、最後にはバナナボートに乗り、笑顔あふれる時間をすごしてもらい、修了証を一人一人に渡され参加者は満足した様子だった。</p>	
告知募集 方法	留萌市教育委員会のご協力をいただき、留萌市内各小学校、保育園へのチラシ配布を行った。 期間：2月27日(月)~3月6日(月)まで	







旗門に挑戦 スキーに親しんで

【旗門】子どもたちにスキーに親しんでもらうこと、NPO法人桜三笠山スポーツクラブは、20日(日)「Erjory powder Snow in 桜三笠山」全町3旗山スキー場で開く幼児・小学生を対象としたイベント「旗門に挑戦」を開催する。当日は冬季5旗山大会に出場した山崎結美さんがスペシャルゲストとして応援駆け付ける。

桜三笠山 小学生ら対象 29日イベント

人で、参加費はリフト料を含む無料。20日までに町総合体育館(電話0163-62-1709)へ申し込みが必要。主催者は「スキーを始めたばかりの子どもでも安心して滑れるようサポートしながら参加を呼び掛けている。このほか、スタンパツリー(午前10時~午後1時)や、雪中まきし(午後1時~1時半)の参加は、当日(20日)で受け付ける。(佐々木智恵)

北海道新聞

日刊京谷

枝幸町 ゲートチャレンジ

キッズプロ川端さんも来る

【旗門】NPO法人エルクススポーツクラブは、20日(日)旗門に挑戦というイベントを開催する。当日は冬季5旗山大会に出場した山崎結美さんがスペシャルゲストとして応援駆け付ける。

桜三笠山 小学生ら対象 29日イベント

人で、参加費はリフト料を含む無料。20日までに町総合体育館(電話0163-62-1709)へ申し込みが必要。主催者は「スキーを始めたばかりの子どもでも安心して滑れるようサポートしながら参加を呼び掛けている。このほか、スタンパツリー(午前10時~午後1時)や、雪中まきし(午後1時~1時半)の参加は、当日(20日)で受け付ける。(佐々木智恵)



このほか、地域新聞、広報誌、地元ケーブルテレビなどでも紹介された。



FISから提供されたデータに、当連盟スポンサーを記載した参加証を作成し開催地にお渡しし、各会場で白紙部分をアレンジして活用してもらった。



ネックウォーマー
FISからの参加プレゼント

本連盟として初めての試みであったが、コラボ開催をして下さった団体、地元スキー連盟、関係各位のご協力、ご尽力のもと、5会場で子供達にスノースポーツで笑顔を届けられたと感じている。北海道は広域で、各地域でのスノースポーツ普及の取り組みの詳細まで把握しきれない状態であったが、本事業を通して熱く励んでいただける方々の思いを強く感じることができた。

国際スキー・スノーボード連盟(FIS)の「FIS Bring Children to the Snow～子供たちを雪の世界へ～」の各国の取り組みを見ると、各国のNFが学校に声かけしてスキーを行うイベントがあり、私たちが当たり前としている「学校でのスノースポーツ授業」は特別であることがわかった。日本型教育は体育の中で様々なスポーツを行い素晴らしい点でもあるのだが、欧米の方にこのことを話したら、とてもびっくりされるのではと思う。

温暖化により近年ヨーロッパでは標高1500メートルでも雪が少ない状況だが、北海道は、海拔数十メートル程度でも豪雪地である。雪かきや猛吹雪での公共機関への影響など、日常生活では大変なことも多いが、雪がなくなり四季を感じない生活とはどうなんだろうか。雪のある生活で私たちが当たり前としてとらえている事が、他国では特別で価値があることであったり、スキー場から海を見下ろす景色も、海外ではほとんどない特別なものである。他にはない素晴らしいスノースポーツの素材があることに目を向けスノースポーツの楽しさを発信できたらと再確認する事業となった。

新型コロナウイルスに関する水際対策が撤廃され、大自然を楽しみに海外から多くの方が北海道を訪れている。スノースポーツの人気エリアといわれる場所以外にも、「雪、食、景色」など多くの魅力を兼ね備えている全道各地の地域の特性を生かし、それらをFISにイベント登録することで世界に発信できることはとても良いチャンスであり、スノースポーツ普及を通して地域活性化にも役立ててもらえるのではないだろうか。

北海道でのスノースポーツの価値を本連盟からも、もっと発信できる可能性を感じる事業となった。来シーズンへ向けて、さらに充実したコラボイベントとなるよう考えていきたい。